MIZUHO　みずほ銀行　One MIZUHO

みずほCustomer Desk Report　2020/05/19 号（As of 2020/05/18）

市場営業部　為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値 GBP/USD	107.20 AUD/USD
TKY 9:00AM	107.22	1.0819	116.02	1.2085	0.6427
SYD-NY High	107.50	1.0927	117.23	1.2228	0.6528
SYD-NY Low	107.05	1.0800	115.80	1.2075	0.6411
NY 5:00 PM	107.33	1.0915	117.13	1.2196	0.6523

NY DOW	24,597.37	911.95	日本2年債	-0.180	▲1.00bp
NASDAQ	9,234.83	220.27	日本10年債	-0.010	0.00bp
S&P	2,953.91	90.21	米国2年債	0.1803	3.02bp
日経平均	20,133.73	96.26	米国5年債	0.3710	6.05bp
TOPIX	1,459.29	5.52	米国10年債	0.7249	8.13bp
ｼｶｺﾞ日経先物	20,665.00	620.00	独10年債	-0.4740	5.60bp
ﾛﾝﾄﾞﾝFT	6,048.59	248.82	英10年債	0.2530	2.25bp
DAX	11,058.87	593.70	豪10年債	0.9190	0.30bp
ﾊﾝｾﾝ指数	23,934.77	137.30	USDJPY 1M Vol	6.50	▲0.08%
上海総合	2,875.42	6.96	USDJPY 3M Vol	7.05	▲0.15%
NY金	1,734.40	▲ 21.90	USDJPY 6M Vol	7.80	▲0.08%
WTI	31.65	2.13	USDJPY 1M 25RR	-1.15	Yen Call Over
CRB指数	129.09	4.34	EURJPY 3M Vol	8.82	▲0.06%
ドルインデックス	99.67	▲ 0.74	EURJPY 6M Vol	9.39	▲0.14%

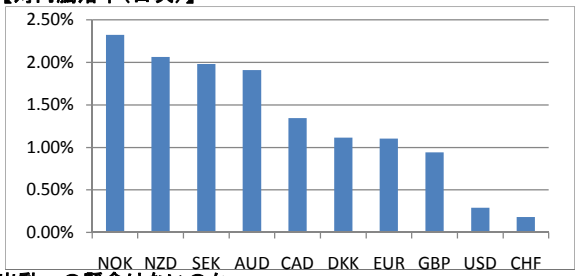
【昨日の指標等】

Date	Time		Event		結果	予想
5月18日	08:50	日	GDP(季調済/前期比)・速報	1Q	-0.9%	-1.1%
	08:50	日	GDP(年率/季調済/前期比)・速報	1Q	-3.4%	-4.5%
	08:50	日	GDPﾃﾞﾌﾚｰﾀｰ(前年比)・速報	1Q P	0.9%	0.7%
5月19日	00:00	英	テンレイロBOE委員 講演		「いかなる政策手段も排除しない」（マイナス金利導入に言及）	

Date	Time		Event		予想	前回
5月19日	18:00	欧	ZEW景気期待指数	5月	-	25.2
	21:30	米	住宅着工件数	4月	900k	1216k
	21:30	米	住宅着工件数(前月比)	4月	-26.0%	-22.3%
	23:00	米	パウエルFRB議長 講演	-	-	-

【ドル円相場】

【対円騰落率（日次）】



アジア

東京時間のﾄﾞﾙ円は狭いﾚﾝｼﾞでの下にいって来いの展開。107.22ﾚﾍﾞﾙでｵｰﾌﾟﾝ後、米中対立の激化懸念からﾄﾞﾙ円はじりじりと107.07まで下落。その後、主要国における経済活動の再開を好感してｱｼﾞｱ株が全面上昇するとﾄﾞﾙ円は上昇に転じた。日本の実質GDP（2020年1－3月期）の速報値のﾏｲﾅｽ幅は、市場予想よりも小さかったが影響は限定的。結局107.20ﾚﾍﾞﾙで海外時間に渡った。

ロンドン

ﾛﾝﾄﾞﾝ市場のﾄﾞﾙ円は107.21ﾚﾍﾞﾙでｵｰﾌﾟﾝし、ｱｼﾞｱ時間で円が売られた流れを引き継ぎ、107.31まで上昇し、日中高値を更新。正午辺りに、米ﾓﾃﾞﾙﾅ社が新型ｺﾛﾅｳｸﾁﾝの臨床試験の第一ﾌｪｰｽﾞに成功したと発表すると、ﾘｽｸを選好し欧州株式市場の主要指数が強含んだが、ﾄﾞﾙ円相場への影響は限定的。結局、107.28ﾚﾍﾞﾙでNYに渡った。ﾎﾟﾝﾄﾞﾄﾞﾙは、1.2110ﾚﾍﾞﾙでｵｰﾌﾟﾝ。全般にﾘｽｸｵﾝの流れが強まった影響から主要通貨買い･ﾄﾞﾙ売りが先行した。ﾎﾟﾝﾄﾞﾄﾞﾙは1.2158まで上値を切り上げて、1.2152ﾚﾍﾞﾙでNYに渡った。（ﾛﾝﾄﾞﾝﾄｰﾙﾌﾘｰ 00531 444 179 ﾏｸﾙﾋﾙ）

ニューヨーク

週末にﾊﾟｳｴﾙ議長がまだ金融緩和できることや、ﾏｲﾅｽ金利については今のところ検討していないことについて発言したが、週明けの海外市場のﾄﾞﾙ円は狭いﾚﾝｼﾞでの推移が続き、107.28ﾚﾍﾞﾙでNYｵｰﾌﾟﾝ。主要な米経済指標の発表が予定されていない中、米ﾊﾞｲｵ企業がｺﾛﾅｳｲﾙｽのﾜｸﾁﾝがまだ初期段階だが、初の臨床で効果があるｻｲﾝが出ていることを発表したことから、ﾘｽｸ志向にﾄﾞﾙ売りが強まる一方、株先物が大幅に上昇する展開に円売りも持ち込まれ、107.45まで戻す。その後一旦下押しする局面もあったものの、ｵﾌﾟｼｮﾝのNYｶｯﾄに掛けて107.50まで上昇。その後は独仏の首脳が5000億ﾕｰﾛのEU復興基金設立を支持することで合意したことを好感しﾕｰﾛが買われる動きに、ﾄﾞﾙ円は107.21まで反落。午後は株高を受けた円売りや、ﾕｰﾛ円の上昇に107.40まで戻し、終盤に掛けては、明日の米上院銀行委員会での証言の事前原稿が発表されるが、特段ｻﾌﾟﾗｲｽﾞはなく、ﾄﾞﾙ円の反応は限定的となり、107.33ﾚﾍﾞﾙでｸﾛｰｽﾞした。一方、海外市場のﾕｰﾛﾄﾞﾙは、1.0800-28でのﾚﾝｼﾞでの推移が続き、1.0820ﾚﾍﾞﾙでNYｵｰﾌﾟﾝ。朝方はｺﾛﾅｳｲﾙｽのﾜｸﾁﾝに対する期待からﾄﾞﾙ売りが強まり、加えて、前述のEU復興基金設立に対する期待からﾕｰﾛ買いが強まり、ﾕｰﾛﾄﾞﾙは下値を切り上げ、5日に付けた高値1.0926を抜け、1.0927まで上昇。午後も高値圏での推移が続き、ﾗｶﾞﾙﾄﾞECB総裁がEU復興基金の提案について支持したものの、ﾕｰﾛﾄﾞﾙの反応は限定的となり、1.0915ﾚﾍﾞﾙでｸﾛｰｽﾞした。（NY井上）

【マーケット・インプレッション】 何でもやる財政出動への懸念はないのか

主要国ではロックダウン解除で経済活動再開が始まっているが、先週金曜日の中国統計を見る限り復活は簡単ではなく、まだ新たな道程は始まったばかりだろう。新しい生活様式の構築、それに合わせた需要の回復がどのようなペースになるかは不確かだが、各国政府の積極的な財政出動が効果的に機能すると期待したい。一般的なマクロ経済学である開放経済を前提としたマンデル・フレミング・モデルで足元の状況を考えてみると、変動相場制を採用している国における財政出動は、国債増発による財政不安が金利上昇を招き、これが消費や投資の落ち込みをもたらすクラウディング・アウトに繋がり政策効果を低減させる他、金利上昇を好感した海外からの資金流入が自国通貨高を招き、これが輸出減・輸入増に繋がる（即ち外需の減少）と、財政出動により増加した内需を相殺するとされる。しかし、現状ではFRBを始めとした主要中銀はゼロ金利政策と量的緩和政策を導入しており、加えて個別企業の資金繰り支援に繋がる資産購入・資金調達手段の提供まで行っている状況で、国債増発を嫌気した金利上昇を抑えて政策効果が最大化される仕組みを取っているとも考えられる。とは言え、経済活動が従前の水準まで戻るのには数年かかると見られ、各国政府の資金調達能力（ロールオーバー含む）が試される場面が来るだろう。現状でも、米債の5年30年スプレッドは新型コロナウイルスショック前の60bp台半ばから106bpへ拡大、一部の国では長期～超長期ゾーン中心に金利上昇の兆しが見え始めている。グローバルに株式が買われている状況でリスクオンムードを感じる場面もあるが、金先物が史上最高値（1771ドル）を窺う展開となっていること、債券は長期ゾーンがやや売られ始めていることなど、警戒する動きもあることに注意したい。新型コロナウイルスからの立ち直りは長期的なテーマであり、いつリスクオフ材料が出てくるかわからず、ドル円は上がった場面では短期的な利益確定の売りが入りやすいと思われ、当面上値の重い状況が続くだろう。リスクの方向は引続き下で考えたい。（岡本）

■今週のドル/円　見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ベア	ベア	ベア

ブル	ベア
6	14

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当：岡本・小野崎 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

OneMIZUHO 未来へ、お客さまとともに